

長野市七二会地区における買い物を目的とした 公共交通サービスに関する研究

平成 28 年 2 月 村松慎也

要旨

目的

近年多くの地方都市において少子高齢化や過疎化が進み、中山間地域ではその傾向がさらに強くなっている。それに伴い公共交通サービスでも利用者の減少によって、減便や廃止になる路線が多くなっている。このような公共交通の衰退によって、外出が困難になるのは高齢者や子どもをはじめとする交通不便者である。本研究では典型的な中山間地域である長野市七二会地区を対象として、高齢者の買い物を目的とする交通の利用に着目し、買物移動実態調査を行い、地域の地形や特性に合った公共交通サービスを検討する。

方法

本研究では、長野市七二会地区で、65 歳以上の高齢者を対象とし、聞き取り方式で調査を行った。調査では、現在の交通実態調査と新たに提案する七二会地区に適した独自の交通サービスに対する利用意向調査を行い、交通実態調査では交通需要や現状の改善点を調べ、もう一方の調査では、提案する新しい案に対する需要を調査した。それらの調査結果を用いて七二会地区の買い物需要を明らかにし、七二会地区に適した公共交通サービスを検討した。

結論

七二会地区では現在公共交通を利用したくても利用しにくい状況であり、住民の多くが公共交通の改善を希望しており、改善された際には利用者の増加が期待できるとわかった。また本研究で提案した 1 つのゾーンを狭いエリアに設定し、需要を集め決まった時間に目的地まで向かうシステムを導入した場合、運賃の希望に差はあるが 76% の人が利用する意思があると回答した。目的地設定や運行頻度なども住民の希望とあっており、提案した路線案は七二会地区に非常に適したものであり、導入されれば七二会地区の交通環境の改善につながると考えられる。今後は実践導入に向けてさらに課題を検討していきたい。

指導教員 高瀬 達夫 准教授